



# 蕪高 SSH だより

2015.10.14 発行

## 古墳時代の遺跡から たくさんのモモの種が出てくるのを知っていますか？

こんなものが、なぜ出てくるのでしょうか・・・？  
「なんのため？」「食料だったの？」「お守り？」  
そんな人類が残した様々なものに対する疑問と謎を研究する学問分野を

### 「考古学・Archaeology」

といいます。住居とか出土する土器（片）がとても有名ですね。道路工事や大きな建物の造成をしていると地中から遺跡の証拠品が出てくることも珍しくありません。これらの証拠品は大切な文化財として保管され、研究の対象としての価値のあるものです。モモの種（モモ核）の存在とその意味から当時の人たちの食性や生活のようすが推定できたら楽しいですね！考古学は歴史学であると同時に科学的な要素もある分野です（だから面白い）



纏向遺跡の発掘調査で出土したモモ種（2010 奈良県桜井市）

モモの種の意味を次のように解釈しているホームページがありましたので一つ紹介します。

\*\*\*\*\*

古代の中国や日本では、モモの実は長寿・不老不死をもたらす不思議な実、破邪の力を持つ神聖な果実として扱われてきた。中国神話では、全ての天女の頂点に立つ女神・西王母（さいおうぼ）は、西方の崑崙山に住み「蟠桃園」というモモ園を所有しており、三千年に一度実をつけ、長寿や不老不死の効力があるという「王母桃」を栽培していたという。そして三千年に一度、神々や仙人などを招待して宴を開き、その仙桃を振る舞ったと伝えられている。日本の神話では、イザナギがモモの実を投げて黄泉の国の追っ手から逃げ延びたという話がある。この話が出来上がる頃、すでに「桃＝魔除け」という思想が日本にもあったとされている。

[http://www.bell.jp/pancho/k\\_diary-4/2010\\_0919.htm](http://www.bell.jp/pancho/k_diary-4/2010_0919.htm) より

\*\*\*\*\*

古代の人々にとって、魔除けのための植物だったかもしれませんね。このように状況証拠やデータから考えることを「仮説を立てる」といいます。でも仮説はすぐに正しいといえるのではなく、あくまでも可能性の一つと考えるのが科学的な姿勢なのです。



コダイモモ (古代桃)

現在までに日本で確認されている最古のモモの種は、長崎の縄文時代晩期の伊木力 (いきりき) 遺跡から見つかったものだそうです。弥生時代の古墳からもモモの種が発見されていて、栗や他の木の実、農作物と同じ様に栽培されていた可能性も指摘されています。しかし、この頃のモモは現在のスモモほどの大きさしかなく、コダイモモと呼ばれているそうです。種類としてはアーモンドの仲間でモモの原種・野生種って感じですね。

蕪崎市や北杜市には、縄文時代・古墳時代の遺跡がたくさんあります。それだけ八ヶ岳山麓 (峡北地域) には縄文時代から多くの人々が定住していたことを教えてくれます。実際にクルミやモモの種が出土している遺跡があります。蕪崎市穴山町の「宿尻第二遺跡」からは、ごそっとモモの種が出てきたそうです! (蕪崎市教育委員会のお話)

これらは貴重な文化財であり本物。せっかくなので蕪高生のみなさんにも見てもらおうということで、今回学校に特別に持ってきてもらうことになりました。当日は文化財担当の方からスライドを使って遺跡の様子や考古学調査についてのお話も伺えることになっています。文系理系問わず、考古学やモモの種に興味を持ってくれた生徒のみなさん、先生方の参加大歓迎です。ぜひふるって参加して下さい。お待ちしております (^\_^)



さらに見るだけでなく、モモの種の分類や大きさ測定も行います。この測定は峡北地域では初めてであり、奈良県の青翔高等学校 (SSH) との共同研究でもあります。奈良と言えば古代文化の日本の中心ですね。そこで出土するモモの種と山梨県産を比べることで、なにか新しい発見があるかもしれません。

(文責: いきものがたり)

古代を知る

## SSH 学習講座

\* 奈良県立青翔高等学校 SSH  
<http://www.nps.ed.jp/seisho-hs/junior/>

「遺跡調査とモモの種」

閨間 俊明さん

蕪崎市教育委員会文化財担当

10月21日 水曜日 16:30 生物講義室

参加希望の場合は SSH 事務局までお知らせください



測ってみよう  
モモの種